



史料室だより

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

No.6 燭台のステンドグラス

—創立 40 周年記念品—



史料室の展示室には本館のステンドグラスの一部をモチーフにして作られたステンドグラス（約12cm×20cm）が10枚飾られています。展示資料の中で一番人気のひとつです。これは創立40周年記念事業の際に記念品として作成されたもので、同じものが当時の教職員にも配布されました。羨ましいですね。

添付の説明書には次のように書かれています。

—ステンドグラスの由来—

わが国に外国からステンドグラスの技術が導入されたのは、最初はドイツから少し遅れてアメリカからでした。

清泉女子大学のステンドグラスはドイツの技法によるもので、製作者はわが国におけるドイツ系ステンドグラスの創始者である宇野沢辰雄氏とみられています。

清泉女子大学のステンドグラスは全部で88パネルあり、明治・大正期に制作されたステンドグラスで、

これだけ多くのものが関東大震災や第二次世界大戦を経過して無疵(むきず)で残存していることは、極めて貴重なこととみられています。技術的にも非常に高度なガラスカットの技術が随所にみられると、専門家は鑑定しております。

正面玄関のステンドグラスは、アール・ヌーボー様式によるシンメトリックなデザインで、のびやかに広がった唐草模様を表わしたものです。この度の記念品は、この図柄の中の燭台の部分を、実物と同じ素材、同じ技法を使って仕上げたものです。

この記念品のステンドグラスの意匠は本学本館のどの部分のステンドグラスからとられたものか、皆さんはおわかりになりますか。答えは写真2枚目をご覧ください！



* 宇野沢辰雄氏

1867（慶応3）年～1911（明治44）年

ドイツで学んだ技術を生かし、国会議事堂のステンドグラスを始め、近代日本建築物の数多くのステンドグラス作品を手掛けた。日本ステンドグラスの生みの親と目されている。

「史料室だより」は清泉女子大学公式インスタグラムにて連載中です。